

講義名	消費者問題論			授業形態	
担当教員	森脇 丈子	開講期・曜日・時間	後期 月曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生
				ナンバリング	

主題と概要

私たちはさまざまな商品やサービスに囲まれて生活しています。健康志向の高まりや高齢化に対応した商品やサービス、子どもたちが興味を持ちそうなカラフルで創造的な商品などたくさんあります。これらの商品のなかには、輸入品も多数含まれています。個人がインターネットを経由して、直接海外から商品を取り寄せ購入することも可能となり、消費者にとっては便利さが増えています。しかしながら、国内の生産者やメーカーとの取引の範囲を超えて、消費者がトラブルに巻き込まれるといった状況も拡大してきています。また、悪徳商法による被害は残念ながら減少していません。この講義では、商品・サービスの売り方(企業側の視点)ならびに消費者の購買行動・引っかかりやすさについて、事例等を使いながら学んでいきます。また、消費者に関連する法律にも触れながら、より安全な消費生活を実現するために何が必要か、どういった行動を身に付けるべきかについて考えていきます。また、毎回の講義の中で、受講生との議論をおこないます(レスポンス活用)。

到達目標

1. 売れ行きよい商品の秘密を知り、それが消費者にどのように受け入れられているかについて、理解できるようになる。
2. 消費者がついていってしまう「買いたくなる」「断れない」状況について、理解できるようになる。
3. 悪徳商法の実例や対処方法などについて学び、対処できるようになる。
4. 消費者保護に関連する法律の特徴について学び、生活に活かすことができるようになる。
5. 消費者の立場から消費や生活のあり方の改善点について、自分で考えるという習慣を身に付けることで避けることのできる消費行動の失敗について、学び、行動できるようになる。

提出課題

受講登録者が多数(概ね80名超)の場合には、「小テスト」を実施します。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

授業開始時に、前回の授業に関する質問について、コメントをします。

評価の基準

1. 「授業中の発言・態度」…点数=30点(2点×15回)
「課題」の順に記入の通り、受講登録者が多数の場合には、小テストを実施する場合があります。この場合、点数配分が変わることがあります。授業中の説明をよく聞いて対応してください。感染予防に努めてください。マスクを着用していない人、マスクをきちんと着用していない人等には、減点をさせていただきます。
2. 定期試験…点数=70点
「授業中の発言・態度」の30点と定期試験の70点の合計点で、評価をします。合計60点以上が、合格です。59点以下は、不合格です。

履修にあたっての注意・助言他

新聞・ニュース・雑誌等で社会の出来事や消費者に関連する問題などについて、情報を日々収集しておいてください。
第1回目の授業がイタズラに必ず出席し、授業の進め方、課題の提出方法、評価基準をしっかりと理解したうえで、受講してください。
授業では、かならずメモをとってください(PPT等のスライドによる撮影は禁止します)。
関連科目として、次の講義の受講を勧めます。
「消費文化論」「生活経済論」「経済学入門」「アミューズメント事業論」「NPO論」
コロナ感染状況によっては、オンデマンド式の授業形態に変更する場合があります。大学からの連絡を常にチェックしておいてください。

教科書

・「使用しない」.					
-----------	--	--	--	--	--

参考図書

・なぜ科学を学ぶのか。	池内了	筑摩書房	924	9784480683601
・食品の裏側2 実態編	安部司	東洋経済新報社	1400	9784492223369
・やめられない キャンブル地獄からの生還。	帯木蓮生	集英社	682	9784087440119

その他

- ・ 授業プリントは、教室で配布します。オンデマンド受講生には、講義連絡に添付します。
- ・ 川上登世(2015)『日行バカ売れ』、KADOKAWA、800円＋税。
- ・ 岩村穂子(2013)『日本人には二種類いる 1960年の新麗』、新潮社、720円＋税。
- ・ 鈴木大介(2015)『老人喰い 高齢者を狙う詐欺の正体』、アダム・オルダ (2019)『ぼくらはほれに抵抗できない「依存症ビジネス」のつくりかた』、ダイヤモンド社
- ・ その他の参考文献は、授業中に適宜紹介いたします。

授業計画

1. 市場に出回る商品・サービス(1)・売れない時代の企業の工夫
2. 市場に出回る商品・サービス(2)・購入をいかに促すか
3. 市場に出回る商品・サービス(3)・消費者へのインパクト
4. 市場に出回る商品・サービス(4)・後援の確保
5. 悪徳商法の実例と対策(1)・高齢者を狙った詐欺
6. 悪徳商法の実例と対策(2)・若者や主婦を狙った詐欺
7. 食の安全性(1)・食品偽装のあれこれ
8. 食の安全性(2)・食品偽装はなぜ起こるか、食品に関わる法律
9. クーリング・オフ
10. 商品事故
11. 商品事故 一般商品、子供向け商品
12. 消費生活相談の現状と課題、消費者運動の歴史と課題
13. 「ニセ科学」について考える(1) 心に関する問題、「平均への回帰」
14. 「ニセ科学」について考える(2) 科学の知識で対処できない問題への対処法
15. まとめと定期試験に関して

授業形態(アクティブ・ラーニング)

<input type="radio"/> A: PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> I: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="checkbox"/> W: ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> E: グループワーク
<input type="checkbox"/> O: プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> K: 実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> K: その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業終了時に、予習について説明します。次回の授業内容に関連する基礎的な語句や情報を調べる等の予習を、授業開始時までに済ませておいてください(作業時間: 2時間程度)。
その日の授業で扱った内容は、次の授業の理解の基盤となります。また、課題で合格点をとるために必要な知識となります。授業で使用したプリントを用いて、基礎的な内容の復習をしてください。また、配布した新聞記事などを利用して、具体的事例で授業内容をより深く理解できるように努め、ノートに要点をまとめておいてください。(作業時間: 2時間程度)。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

社会の仕組みや働き、日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる。統計調査やフィールドワークなどの実証的な調査研究の方法、コミュニケーション能力を身に付け、それらを社会貢献活動、ビジネス、援助に積極的に活用することができる。
(2) 社会文化コース 社会構造や社会制度といった社会の仕組みや働き、地域社会における人びとの生活や文化などについて専門的な知識を有し、さまざまなことからの社会における役割や意義を理解し、考えることができる。社会の問題や人びとの考え方を捉えることができ、社会貢献・産学連携、インターンシップなどで現実社会との接点を持ち、「社会人」として活躍できる基礎的な能力を身に付け、より良い社会を実現するための新しい社会、文化を創造することができる。さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

対面の授業中に多くの質問を出します。受講生は、自分の意見を述べてください。

実務経験の有無及び活用

備考

第1回目の授業に必ず出席し、授業方法、成績評価方法について、しっかりと理解してください。
授業ではメモをとって、理解を深めてください(スライドによるPPT等の撮影は禁止します)。
授業中の私語や教室への勝手な出入りを禁止します。スマホは教員の指示がある場合に使用してください。
授業中の悪い人には、注意を求めたいことがあります。
コロナ感染状況によっては、オンデマンド式の授業形態に変更する(シラバスの変更を含む)場合があります。大学からの連絡を常にチェックしておいてください。